

山村から見る地元学のススめ

～地元から学ぶ、暮らしと文化を伝承する、村ぐるみ活動のすすめ～



NPO法人里の自然文化共育研究所・山形大学大学連携推進室

Institute of Collaborative Education for Sustainable Rural Communities, NPO

出川 真也

Shinya Degawa

1. 東北山村の現状 - 課題から地域の価値・誇りの復権へ -

- (1)山村の過疎少子化と誇りの喪失「何もないムラ」という語り
 - ・ 日々可視化される課題の山積み状況
 - ・ 現状では生業として成り立たない山村独自の仕事や資源の数々
 - ・ 「よく何もないムラに来たなあ」という語り
- (2)多様な地域活動の存在と地域づくりの萌芽
 - ・ 地域共同組織を支える意識と多様な地域教育活動の存在
 - ・ 集落を基本単位とする互助協働の伝統的営みの存在

多面的・公益的機能の発揮

(水涵養、農産物の供給、ふるさとの原風景(癒し)、地球温暖化防止機能.etc)



図1:里地里山構成の相関関係

山形県の典型的な山村：戸沢村角川地区



地元学とは

- (1)自分たちで自分たちのことを調べる、地元学ぶ「地元学」
 - ・自分たちで調べるということ-調べた人が一番詳しくなる-
 - ・単なる調査ではない住民のための調査-役立てるために調べるということ-
- (2)ヨソモンの目線の違いを生かして自分たちのことを再発見するプロセスの重視
 - ・住民にとっては日常的で当たり前。ヨソモンにとってはその当たり前がすごい。
 - ・外部者の目線を活用して外部者ではなく住民が自分たちのことを再発見する
- (3)従来型の（行政・研究者・コンサルタント等による）調査・研究・計画づくりとの相違
 - ・調査後の活動の展開を担う住民やかかわる当事者による調査ということ
- (4)当事者による地域計画づくり・組織と実行プログラム作り
 - ・自分たちで調べたことを元に企画
 - ・住民による現実的かつ自由な発想の計画作り
 - ・地域の実情に合わせた組織・プログラムの作りの遂行

地元学（地域の環境文化調査）

～まずは地域の「あるもの探し」からはじめよう～
子どもから大人まで地域住民とヨソモン参加で実施



地元学（地域の環境文化調査）

～聞いて、見て、やってみて、調べました～

子どもも大人もじいちゃん、ばあちゃんも楽しくなる



地元学で発見された水辺の生き物達



地元学で再発見された郷土料理の数々



地元学（地域の環境文化調査）

皆で発表会、調べたものを地図にまとめて今後の活動を話し合う。
集落の将来の夢を語り合いました。



子供から大人、じいちゃんばあちゃんまでみんなで語り合いました。

地元学の成果物

- 地域マップ
- 地域資源カード
- 地域の歳時記

以上からこれからの地域づくりを考える。

互助の精神で 角川をつくる

人が元気
健康・長生き

集まる・楽しむ
太鼓。お茶

角川
サクラマス
ヤマメなど

手伝いあい

楽しむ 遊びを決めてから仕事する
ものづくりを楽しむ／飲んだり、食べたり、
おしゃべりしたりして楽しむ

ものづくり、
加工所

生活博物館・角川

アトピーが
ない

角川は毎日が生活文化祭

雪に生きる力

山菜が豊か

通学合宿
教育がいい

食べ物が
うまい

祭り・行事

お手伝いツアー
ワーキング・ホリデー

仕事

山、畑、田んぼ
など

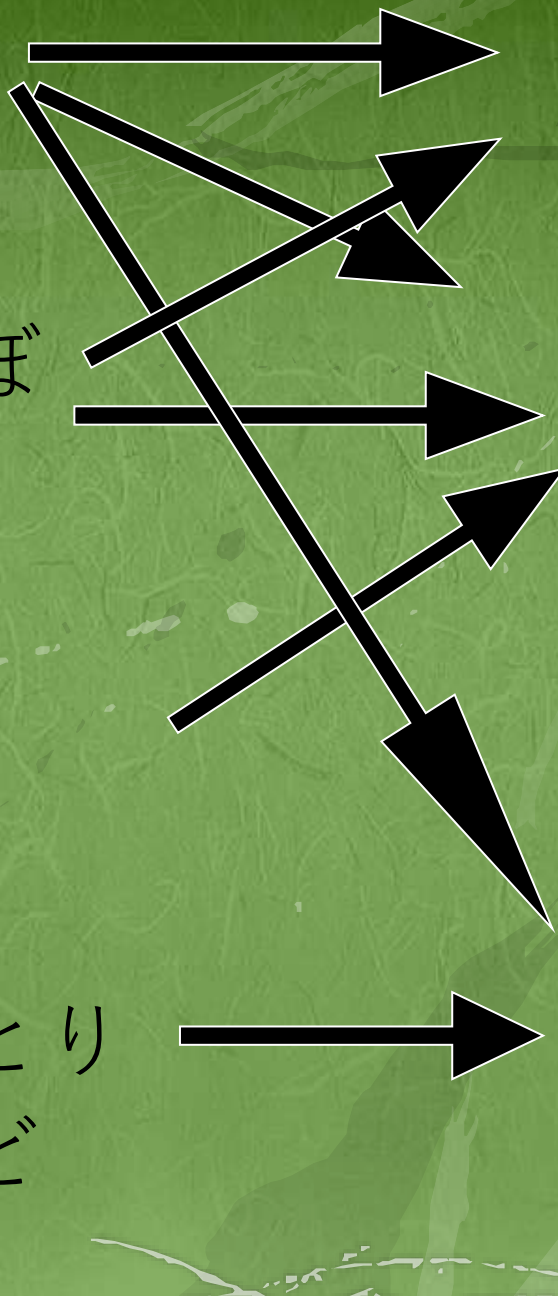
参加・体験

遊び・楽しむ

川や山での
魚釣り、泳ぎ、
山歩き、山菜とり
など

見る・眺める
聞く

地域に根ざした手作り地域産品



3. 地元学後の展開 - 住民の草の根活動の組織的展開 -

- (1) 戸沢村角川地区の事例から - 里の自然環境学校の設立と活動の展開 -
 - ・ 地域運営学校としての組織 - 地元住民が里の先生として取り組む -
 - ・ 地元のありのままの営みを活動プログラムとして再生
 - ・ 地域環境保全や地域に寄り添った新機軸活動の導入・交流と学習の促進
- (2) 地元学は調査から実際の活動まで地域住民とヨソモンが織りなしながら作り上げる
 - ・ 取り組みに直接かかわる当事者が計画から実行、展開まで主体となるべきもの
 - ・ 地域内コミュニケーションの活性化と地域の潜在能力の発揮を促す

角川里の自然環境学校の設立

最上郡戸沢村角川地区は

- 豊かな山と川に囲まれた日本の原風景を残す農山村
- 里の環境に根ざし貴重な自然や文化が息づく農山村

課題；地域の財産が受けつなげられないまま廃れようとしている



角川里の自然環境学校の設立

- 地域住民が「里の先生」
地域文化（知恵や技術）を担う住民が活動の中心
- 地域の自然や文化を再発見
農山村の未来に向けて子供達に教え伝える取り組み
- 住民主体の新たな地域作りを行う地域運営学校

組織構成

角川里の自然環境学校は、
角川14集落の「里の先生」を中核に、6学校と4部局で構成。

- 山の学校
- 川の学校
- 食の教室
- 農の学校
- もの作り塾
- 民話・昔遊び塾
- 研究部（コミュニティ活動・環境保全/地域資源研究部）
- 交流部（里親委員会、ヨソモン交流会館）
- 探検部（南部里地探検隊）
- 応援部（自然学校サポーター ※主に高校生と若手社会人）